

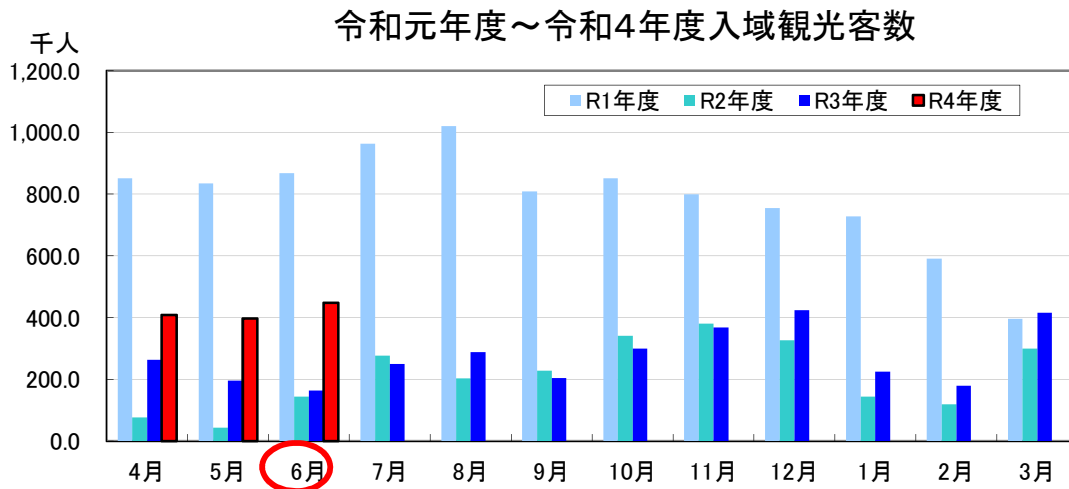
令和4年(2022)6月 入域観光客数概況

44万8,500人
 対前年(R3)同月比 +28万5,600人、+175.3%
 ~対前年同月比で過去最も多い増加数(2ヶ月連続)~
 ※(R1)同月比 △41万9,700人、△48.3%

入域状況

入域観光客数(令和3年度との比較)

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	448,500 人	162,900 人	+ 285,600人	+ 175.3%	100.0%
外国客	0 人	0 人	0人	0.0%	0.0%
合計	448,500 人	162,900 人	+ 285,600人	+ 175.3%	100.0%



国内客 入域状況

6月は、前年同月において一部地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、減便規模の縮小やワクチン接種が普及していることなどから、前年同月を上回った。しかし、コロナ前の令和元年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、新規感染者数の増加に伴い国による全国旅行支援の実施が延期となったことなどから、状況を注視していく必要がある。

外国客 入域状況

6月は、観光目的での入国制限について、感染リスクが低い国や地域からの添乗員付きパッケージツアー等一定の条件下において認められるなど一部緩和されているものの、入国者数上限などの入国制限措置がとられていることなどから、引き続きゼロとなった。

7月は、那覇空港における受入体制が整ったことから運航再開が期待されるものの、入国者数上限など入国制限措置が引き続きとられていることなどから、航空各社及び国内外の動向を注視していく必要がある。

国内客 地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	222,500 人	95,000 人	+ 127,500人	+ 134.2%	49.6%
関西方面	98,600 人	30,500 人	+ 68,100人	+ 223.3%	22.0%
福岡方面	55,800 人	18,500 人	+ 37,300人	+ 201.6%	12.4%
名古屋	41,600 人	12,100 人	+ 29,500人	+ 243.8%	9.3%
その他	30,000 人	6,800 人	+ 23,200人	+ 341.2%	6.7%
合計	448,500 人	162,900 人	+ 285,600人	+ 175.3%	100.0%

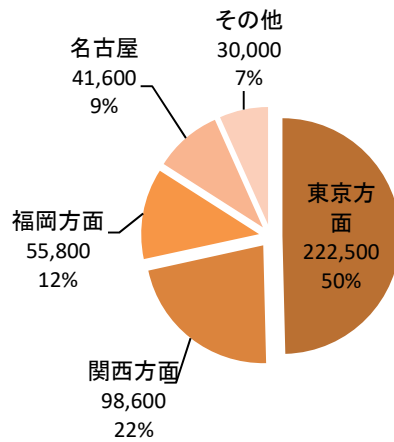
※国内海路客1,400人を含む(鹿児島1,400人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小があった影響などから、前年同月を上回った。

7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

関西

6月は、前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、減便規模の縮小があった影響などから、前年同月を上回った。

7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

福岡

6月は、前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。

7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

名古屋

6月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、減便規模の縮小や名古屋－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。

7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

台湾

6月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

6月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

6月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

6月は、香港－那覇路線が運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。